

こども家庭庁の認知度およびこどもの意見募集事業に対する意識について アンケート結果と考察

令和5年12月26日

こども・若者意見参画及び意見反映専門委員会
黒木 碧恵

要旨

広島県府中市の小学6年生・義務教育学校6年生、中学1～3年生・義務教育学校7～9年生を対象に、こども家庭庁の認知度およびこどもの意見募集事業に対する意識の調査を目的としたアンケートを実施した。

アンケートの概要は以下の通りである。

- 実施期間

2023年11月24日～2023年12月8日（2週間）

- 対象者及び回収状況；対象者は学校で公民を学習した小学6年生以上とした

小学校6年生 / 義務教育学校6年生児童（以後小学6年生と表記）：257名中148名（約58%）

中学校1-3年生 / 義務教育学校7-9年生（以後中学生と表記）：818名中604名（約74%）

- 調査方法

府中市の小中学校/義務教育学校に導入されているクロームブックのFormsを使用した。アンケート実施時には、動画を添付し、アンケートの目的説明を行った。また、よりこどもの素直な意見が反映されるよう、家庭に持ち帰らず学校の時間内で実施した。

アンケートの目的 説明文章および動画

文章：

あなたは、令和5年4月からこども家庭庁が設立されたのを知っていますか。国の政策は大人の決めること。こどもには関係ないことだと思いませんか？もしも、あなたの声が国の政策に反映されるとしたら、あなたは何か言いたいこと、みなさんの意識を調査させていただきます。

動画 URL

<https://youtu.be/yjwaHfNCxe4>



質問項目

小学校6年生 / 義務教育学校6年生児童

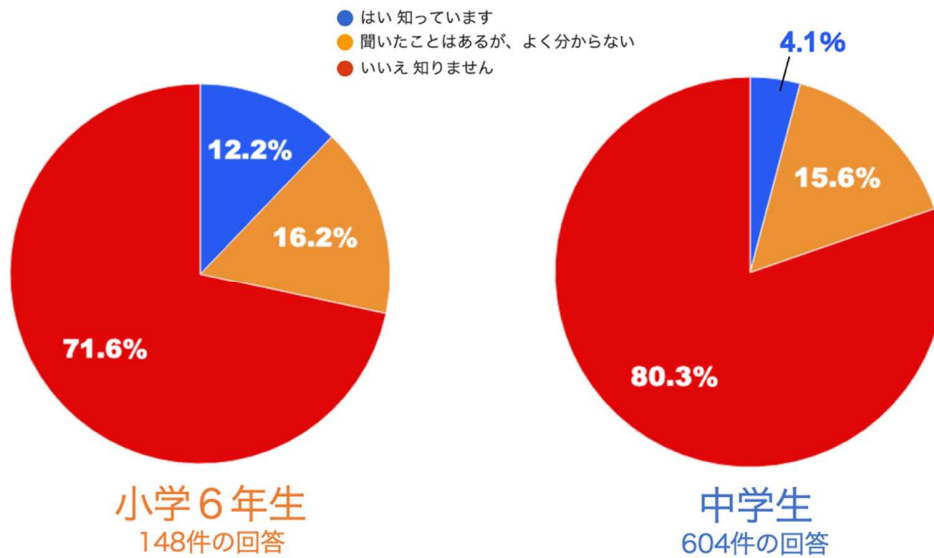
1. こども家庭庁を知っていますか？（選択式）
2. こどもの意見が国の政策に反映され、社会・世の中を変えるきっかけになると知ったら、あなたは意見を言いたいですか？（選択式）
3. 「はい言いたい」と答えた人に質問です。言いたいことはどんなことですか？（選択式）
4. 「いいえ言いたくない」と答えた人に質問です。言いたくない理由は何ですか？（選択式）
5. Q3・4で「その他」と答えた人に質問です。言いたいことや言いたくない理由を具体的に書いてください。プライバシーに関わることで、回答が難しい場合は無理に書かなくても良いです。（記述式）
6. こども達がより意見を伝えやすくするためには、どんな工夫ができると思いますか。大人がどんなことをしたら良いと思いますか。どんなことをして欲しいですか。（記述式）
7. 自由に書いてください。（例：あなたが今考えていること「こんな世の中が理想だな」「こんな府中市になったら良いな」「学校がこうなれば、もっとみんな

中学校1-3年生 / 義務教育学校7-9年生

1. こども家庭庁を知っていますか？（選択式）
2. こどもの意見が国の政策に反映され、社会・世の中を変えるきっかけになると知ったら、あなたは意見を言いたいですか？（選択式）
3. 「はい言いたい」と答えた人に質問です。言いたいことはどんなことですか？（選択式）
4. 「いいえ言いたくない」と答えた人に質問です。言いたくない理由は何ですか？（選択式）
5. Q3・4で「その他」と答えた人に質問です。言いたいことや言いたくない理由を具体的に書いてください。プライバシーに関わることで、回答が難しい場合は無理に書かなくても良いです。（記述式）
6. こども達がより意見を伝えやすくするためには、どんな工夫ができると思いますか。大人がどんなことをしたら良いと思いますか。どんなことをして欲しいですか。（記述式）
7. 自由に書いてください。（例：あなたが今考えていること「こんな世の中が理想だな」「こんな府中市になったら良いな」「学校がこうなれば、もっとみんな

それぞれの質問項目に対する回答とその分析

Q1. こども家庭庁を知っていますか？



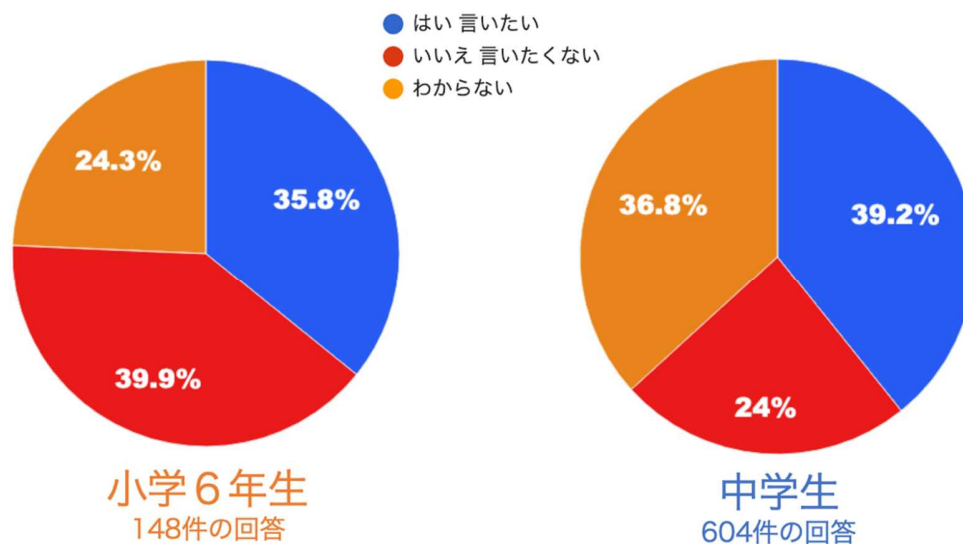
調査結果から分かること

こども家庭庁について知らない人が、どちらも 70 - 80%である。

設立から8ヶ月が経ち、ネットニュースやテレビニュースで、こども家庭庁について取り上げた報道を目にする機会が増えた。

上記の結果より、こども家庭庁を知らない人がほとんどであることから、こども達のほとんどが設立目的や取組みについても知らないことが推測できる。政策の当事者であるこども達がより設立の目的や取組みを把握し、こども家庭庁の存在を身近に感じることができるようになる必要がある。

Q2. こどもの意見が国の政策に反映され、社会・世の中を変えるきっかけになると知ったら、あなたは意見を言いたいですか？



調査結果から分かること

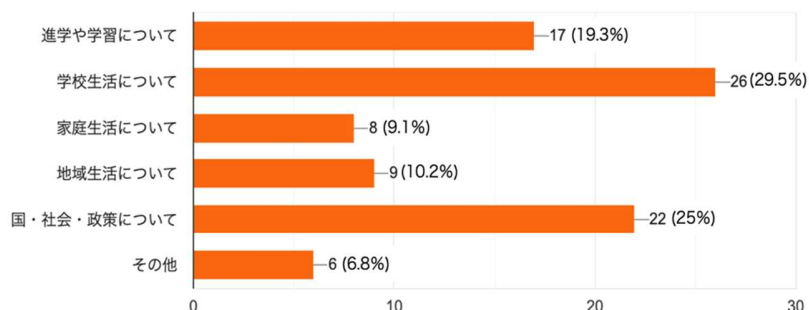
どの項目にも選択者が一定数いる。小学6年生で最も選択者が多かったのは、「言いたくない (39.9%)」であった。それに対し、中学生では「言いたい (39.2%)」を選択した人が最も多かった。

後の項目 (Q3) の分析も踏まえると、中学生の方がより多くの人に学校の校則や受験、社会状況に対する疑問や不安意識があることが分かる。発達年齢に伴う環境や意識の変化が、2つの円グラフに見られるような傾向に差をもたらしていると考えられる。

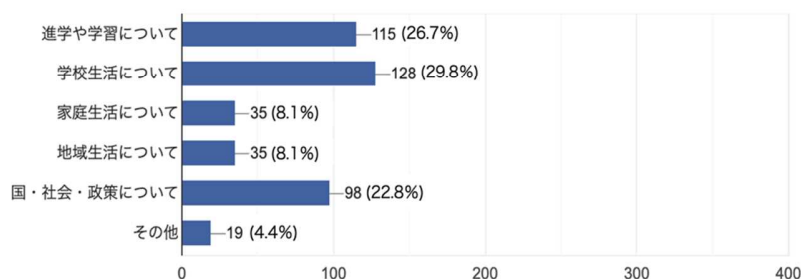
Q3. 「はい 言いたい」と答えた人に質問です。言いたいことはどんなことですか？

(複数回答可)

小学6年生
延べ回答数：88



中学生
延べ回答数：430



調査結果から分かること

いずれも、最も多くの人々が「学校生活について」を選択しており、次いで「進学や学習について」または「国・社会・政策について」が選択されている。

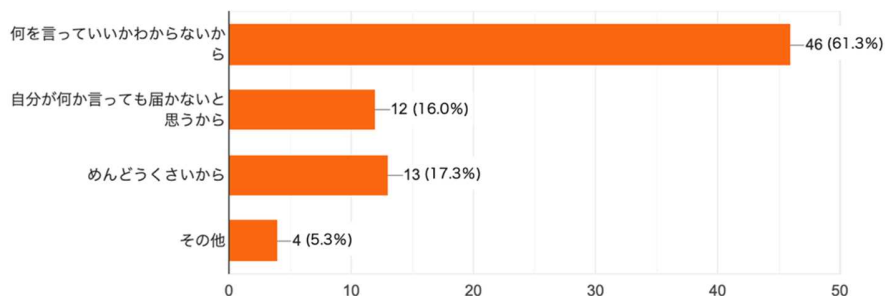
当初、国・社会・政策について意見を言いたいと思っている人は少ないと考えていたが、予想に反して、どちらの対象者でも国・社会・政策について意見を言いたい人が、学校生活や進学・学習の項目と同じくらい多かった。

中学生は高校受験が迫っているため、小学生よりも「進学や学習について」を選択した人の割合が高くなっているのだと考えられる。

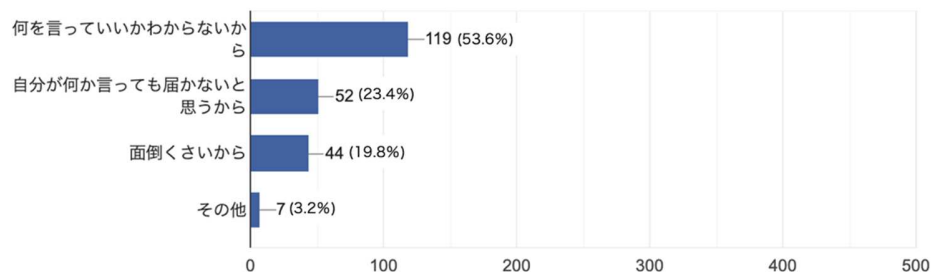
Q4. 「いいえ 言いたくない」と答えた人に質問です。言いたくない理由は何ですか？

(複数回答可)

小学6年生
延べ回答数：75



中学生
延べ回答数：222



調査結果から分かること

いずれも、「何を言ってもいいかわからない」を選択した人が最も多かった。

国の政策に対してどのような意見を言えば良いか、イメージを持てるような工夫を行えば、意見を言いたい人が増えると推測した。また「自分が何か言っても届かない」と感じる人を少なくするための取り組みや情報発信も必要だと感じた（Q6参照）。

Q5. Q3・4で「その他」と答えた人に質問です。言いたいことや言いたくない理由を具体的に書いてください。プライバシーに関わることで、回答が難しい場合は無理に書かなくても良いです。

	小学6年生 9件の回答	中学生 30件の回答
選択肢以外に言いたい 意見について	<ul style="list-style-type: none"> 「男性だから」「女性だから」の考え方を減らして欲しい。多様性を尊重し、制服選びなど自由に生きられる社会になって欲しい。(2件) 将来のこと。自分がやりたいことを好きなようにしたいが、「安定しない夢」が社会から批判されがちである。(1件) 町のことなど(1件) 駄菓子屋さんを増やしてほしい(1件) 社会情勢について；増税、犯罪に関するニュースのこと等(2件) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校での規則が厳しすぎることについて(5件) スマホやお金など(1件) 田舎にも遊ぶ場所や勉強スペース、店、街灯を増やして欲しい。学生も楽しめる場所が欲しい。(3件) 町をもっと発展させ、みんなが暮らしやすい地域にしたい(2件) 部活や備品のための資金を各学校にもっと与えてほしい(1件) 高校受験や進路、将来について(4件) →(私立)高校の無償化 →受験をもう少し簡単に/無くして欲しい 社会のルールをもっと分かりやすくしてほしい(1件) 社会情勢について；給料の引き上げや増税、戦争のこと等(3件)
意見を言いたくない 理由について	<ul style="list-style-type: none"> 困っていることがない、言うことがない(2件) 話すことが嫌いだから(1件) 	<ul style="list-style-type: none"> 届けたいことがありそうでないから(1件) よくわからない取り組みに加担したくないから(1件)

Q6. こども達がより意見を伝えやすくするためには、どんな工夫ができると思いますか。大人がどんなことをしたら良いと思いますか。

小学生と中学生の回答を比較した（p9-11 参照）。寄せられた意見は主に4つに分類できた。

	小学6年生	中学生
1	こどもの意見に対する大人の態度	
2	意見募集の雰囲気・工夫	
3	意見募集の方法	
4	意見募集の宣伝方法	意見募集の改善案

Q6に対する考察

多くの小中学生が、大人はこどもの意見を聞いてくれないとアンケートに回答していた。また、大人に自分の話を最後まで聞いてもらった経験が少ないと感じている。（分類1）

こどもだからといって意見を蔑ろにしたり、反対したりせず、「受け止める」「寄り添って賛成する」ことをして欲しいと多く書かれていた。そのために、こどもの意見を大切にするように大人側の意識を変えていく必要がある。同時に、大人に意見を聞いてもらえる機会や環境、話しやすい雰囲気を作る必要もある。

具体的には、大人の意見が正しいと感じるような堅苦しい場をなくし、楽しく意見を言える雰囲気であったり、こどもが理解できるような言葉遣いを心がけたりすることが必要である。また、言いたいことを上手く伝えられない場合やどんな意見を言えば良いかイメージが湧かない場合には、大人の積極的なサポートが必要である。また、大人が質問をすることでこどもの意見を引き出すことも必要である。（分類2）

意見募集の方法として、オンラインアンケート・意見ボックスが最も多く挙げられた。学校では、各児童・生徒が一人一台端末を持っているので、それを利用したアンケート実施が有効であると考えられる。その際に、匿名性が確保されることや、自分が言いたい時にすぐに意見を言えることが重要である。具体的な方法だと、チャット機能や府中市が活用している「STANDBY」のようなアプリが挙げられる。

また、一人では意見を言いづらいという声も複数あった。そういった場合は、学校の授業や集会、児童会・生徒会を活用したり、似た意見を持ったメンバーでグループを作ったりといった工夫ができるだろう。役所に意見を言いに行くことができる日を自治体で設けたり、こどもが組織する団体や議会を作ったりすることを要望する意見もあった。（分類3）

こどもが自分に合った意見を言いやすい方法で、意見を言うことができる仕組みが重要であると考えられる。

また、中学生は意見募集の改善案についても多く意見を述べていた。分類1にも関連するが、意見を伝えたところで、それが本当に聞いてもらえたか、政策に反映されているか分からないという意見が挙げられた。実際にこどもの意見が具現化された例を出し、大人が本当に子ども達の意見を理解し、反映してくれているということを実感させることで、意見募集への参加に対して意欲を持つ子どもが増えるだろう。また、意見を言える権利や制度があること、政治・経済や社会問題について知ったり学習したりすることが、意見の持ちやすさや言いやすさに繋がると書いている人が数名いた。(分類4)

小学6年生 (124件の回答) :

項目	具体的な意見
こどもの意見に対する大人の態度	<ul style="list-style-type: none"> • 自分たちの意見を、途中で話を切らずに最後までちゃんと聞いてほしい • 反応を示して、私たちの思いを理解しようとする姿勢を示してほしい。意見に寄り添い、賛成してほしい。反対の場合は優しく教えてほしい。 • こどもや若者に、これから何を取り組めば良いのかを相談して、こどもと一緒にどんなことをしたら良いか考えてほしい。大人がもっと積極的に意見を聞いてほしい • どのような意見を言えば良いか分からないので、具体的な例が欲しい。アドバイスも欲しい。 • こどもが説明しやすいように大人が寄り添ったり、行政に意見を伝えるときには大人がこどもの意見を代弁したりしてほしい • 集められた意見を1つ1つ解決すれば良いと思う • 先生と2対1で話す機会が、全校に平等にあるとよい • こども達の意見についてフォローしたり、大人の考えとこどもの考えを比べたりしてほしい • 大人とこどもの差をなくし、「この子だったら…」と同じ立場に立ってほしい。 • 大人ばかりが中心にならないようにしてほしい。あまり干渉しないで欲しい。
意見募集の雰囲気・工夫	<ul style="list-style-type: none"> • 堅苦しい場を無くし、楽しく意見を言える雰囲気が良い • 気軽に意見を言え、伝えやすい環境を作る • 意見を優しく聞く • こどもが理解できるような説明・言葉遣いにしてほしい

意見募集の宣伝方法	<ul style="list-style-type: none"> • ポスターを貼る • 声かけ • ポイント制を導入して興味を惹く
意見募集の方法	<ul style="list-style-type: none"> • 年に数回、学校でアンケートを実施する。その結果が国や行政に届くと良い • スーパーや学校にこども意見箱を作る。それでも意見が少なければ、各学校の代表児童・生徒が今の学校の現状を伝えられるようにする。 • 学校などで曜日を決めて集会を開いたり、クラスでグループを作ったりして、話し合いをして意見を出す →意見がある人の意見を聞く →大人に話し辛い時は、同年代の方が率直に意見を言える →似た意見を持ったこども達と大人数人でグループを作る。 • いろんな方法を試して、自分が最も言いやすい方法で意見を言えるようにしてほしい。 • 全国各地や学校など、身近な場所で、こどもが大人に意見を言える場を設けてほしい • こどもが言いたいことをまとめた紙を、学校からこども家庭庁に届ける日を作る • 匿名、秘密厳守で無料で相談したい • パソコンや携帯など、オンラインやアプリを活用する

中学生（478件の回答）：

項目	具体的な意見
こどもの意見に対する大人の態度	<ul style="list-style-type: none"> • こどもの声に耳を傾け、1つ1つの意見と真剣に向き合いながら聞いて欲しい。意見を言った後、文句や反対をせず、まずは受け止めて欲しい。尊重し、できれば肯定し褒めてほしい。 →自信を持って喋ることができるようにしてほしい。 →蔑ろにしないでほしい。 →教師だけでなく、こどもが頼りやすい人やもっとこどもの生活に関わってくる人と話をしたい。 • こどもと対等な立場で、寄り添いながら意見を聞いてほしい • 日頃から話を聞き、もっとこどもの考えを知ってほしい • 大人が積極的に、こどもに意見を聞いてほしい

	<ul style="list-style-type: none"> • 意見を伝える方法を教えて欲しい • こどもが頼りやすい人に学校に来てほしい • 責任を持ってこどもを育て、大切にしたい • 大人がこどもの見本となる行動を取り、信頼関係を築き上げる • 実際にできることは早めに行動に移してほしい
意見募集の雰囲気・工夫	<ul style="list-style-type: none"> • 自信を持って喋ることができるよう、褒めて欲しい • 省庁に意見を送るとなると難しく考えてしまうので、より身近な範囲で普通のアンケートを取ったら良い • 親近感が湧き、気軽に話しても大丈夫だと安心感を持てる環境 • 怒られず、どんなことでも相談できる・しやすい環境を作る • こどもにわかりやすい言葉遣いで説明する • 大人の見解が正しいという雰囲気をなくしてほしい
意見募集の方法	<ul style="list-style-type: none"> • こどもが気軽に意見を伝えられる場を作る。こどもでは上手く表現できない時があるので、大人が言語化をサポートしてほしい。 • 直接は言いにくいので、匿名で意見を言えるアプリを作り、プライバシーが守られた安心できるシステムを作りたい →学校のタブレットにインストールされている「STANDBY」のようなアプリがあると、気軽に自分の気持ちを相談・伝えることができる。(学校のタブレットやパソコンを活用) • 多様な意見の伝え方を準備してほしい →こども達が思っていることを動画にし、発信するなど • 定期的に意見を話せる場を設けてくれたら、気が向いたときに参加できる。いつでも意見を言える。 • 一人で意見を言うと言いつらいため、みんなで意見をだし、それをまとめて伝える。みんなでまとめた意見を学校で絞り、それを市で絞り、さらに県で絞ってこども家庭庁/国会に伝える。 →大人は手を加えないでほしい。こども同士で話し合いができる場が良い。こども会議やこどもが組織する団体を作る。 • 定期的に将来や進路のことについてアンケートをとって、自分だけの悩みになるのではなく、いろんな人に悩みを打ち明けられる機会を作る • 1日1回意見を言わせてほしい。親が定期的にこどもと真剣に話す機会が必要。普段から話を聞いてもらえる経験づくりが必要。 • 学校や市役所、店で意見箱や意見を書く紙、ポスター、付箋などを用意して、簡単に意見を表明できるようにする。 • 授業；総合的な学習の時間や学活などで生徒の意見を聞く。それを色々な学校で実施する。

	<ul style="list-style-type: none"> • こども全員に一齐にアンケートを取る • 質問を簡単にして欲しい • まずは大人がこどもにシステムや背景を教え、意見を聞くようにしてほしい。そうすれば、一人一人が意見を持ちやすくなるし、次に繋げやすくなる。これからの社会に対する理解も深めたい。 • こども専用の課を市区町村におき、こどもが市役所に直接意見を言いに行く機会を設ける。 • こどもを国会議員にする。 • 自分の考えを自然と意見として声に出せるようにするために、自分の考えを把握したり整理したりする機会を設けてほしい。 • こども家庭庁の人たちとこどもが交流して、直接やって欲しいことなどを言う
<p style="text-align: center;">改善案</p>	<ul style="list-style-type: none"> • こどもが意見を言える権利や制度があることをもっと広める。 • 「こどもの意見は反映されにくい」「言ったところで意味がない」と思うことが、意見を言わない原因だと思う。 →大人が本当にこども達の意見を反映してくれると言うことを実感させて欲しい。そうすれば、小さな意見でも自分の意見を持つことができるようになり、伝えることもできるようになる。 →こどもでも署名を集めたり、大人に訴えることによって社会が変化するという事例をもっと増やし、当たり前にしていく。まずは大人が行動で示すことで、「こうして欲しい」というこども達が増えると思う。 • 小さい頃から政治や経済について教える。こども側がもっと今の政策について知ると、意見を持ちやすくなる。 • 実際にどのような方法で意見募集事業が進められているのか知ることができたら、現実味が出てきて参加しやすくなると思う。 • ゲーム感覚で意見募集にアクセスできるようにし、興味を惹く。

Q7. 自由に書いてください。(例：あなたが今考えていること「こんな世の中が理想だな」「こんな府中市になったら良いな」「学校がこうなれば、もっとみんなが楽しく過ごせるのに」等

項目

1. 学校について

多くの児童・生徒が校則に対する意見を書いていた。特に中学生では、制服や髪型に関する意見が多く挙げられた。具体的には「個性を奪う」「勉強と関係ない」「厳しい」と捉えている生徒が多い。

また、授業の内容に関する意見もあった。例えば、インターネットに関する授業やPCを使った授業、個人で学習の進度を調整できる仕組み、学校間交流がもっとあると良い等である。その他にも、いじめ問題や、進路に対する不安などに関する声も多く寄せられた。意見を聞いた先生や、教育委員会にはもっと行動を起こしてほしいなどの意見もあった。

従来のルールや慣習に従うのではなく、今の子ども達の考えや感じていることが出来るだけ学校生活に反映されると、子ども達にとって学校は通いたい場所になるだろう。

2. 府中市について

府中市の活性化や大型施設の誘致に対する意見が多い。

具体的には、小学生は遊び場や楽しい行事を増やして欲しいという意見が多かった。その一方で中学生は、高齢者や未就学児、小学生を対象にした広場・遊び場だけでなく、3世代で楽しめる場所、中高生も楽しめる施設や静かに勉強できる場所がもっと欲しいという声をあげていた。

また、過疎化など身の回りの社会問題に目を向けた意見も多く、府中市の自然を活かした町づくりを行い、他地域に発信できる魅力をさらに作って欲しいという要望もあった。子どもの声をもっと聞いてくれる府中市のシステムが欲しいという声も上がっていた。

3. 社会問題について

世界平和、平等公平、いじめのない世界、減税などの意見が多く寄せられていた。具体的には、環境問題の解決に向けた取り組みや男女差別の解消、海外の人との交流などがその一例ある。また、家計について親から話を聞く機会が増える中学生は、増税のことや賃金格差、物価高騰などに対しての意見もあげていた。

中には、高校や大学の無償化を願う声や自分になりたい職業に対して支援を願う声もあった。子どもが政治に興味を持つためにも、子どもの意見が尊重され、さらに意見がしっかり伝わるような世の中を願う声もあった。

まとめ これまでの結果・分析を踏まえて

「Q2. こどもの意見が国の政策に反映され、社会・世の中を変えるきっかけになると知ったら、あなたは意見を言いたいですか？」では、多くの人が意見を「言いたくない」「分からない」と答えていた。しかし、Q6やQ7から考察すると、具体的な質問項目や回答例を設けると、こどもは自分なりに意見を表現できるということに気が付いた。

小中学生は日頃の生活の中から学校や地域、国の政策に対して何かしら自分の意見や考えを持っているが、それを表明する機会はほとんどない。また、自分が持っている考えを誰に・どのように・どうやって伝えれば良いのか分からない（方法を知らない）ことが多い。

私はこどもが、日頃持っている疑問や不安も「小さな意見」として、周りの大人に受け取ってもらったという経験を持つことが、こどもが地域や国の政策に対して意見を言うことに意欲関心を持つために必要な第一歩なのだと思う。

アンケート結果の分析を通して、こども達にとって意見を言いやすい場所は、身近な学校や地域（自治体）であると感じた。こどもの意見が国の政策に反映される社会を作るためには、身近な学校や地域（自治体）が主体となって、こどもの意見を聞く体制作りを行っていく必要があると考える。

付属資料：「こども家庭庁」と「こども若者★いけんぷらす」に関する紹介

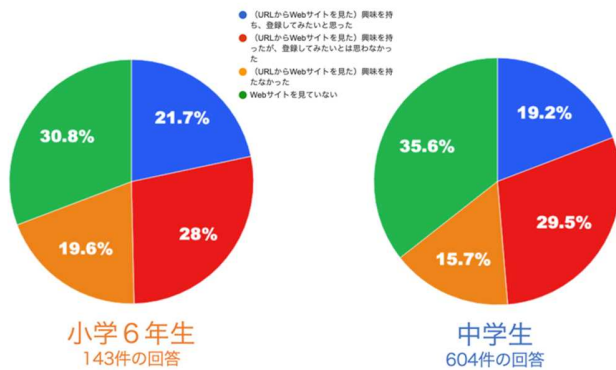
アンケートへの回答終了後に、「こども家庭庁」と「こども若者★いけんぷらす」を紹介する項目を設けた。右の写真の通り、こども家庭庁の説明動画（やさしい版）とこども若者★いけんぷらすの説明・登録ページにアクセスできる URL を添付した。

この項目の後に、添付した紹介動画や web サイトを閲覧したか否か、登録をしてみたいか否かを問うアンケート項目を1つ設けた。

設定した質問および選択肢、それに対する回答結果は以下のグラフの通りである。



Q8. 「こども若者★いけんぷらす」についてどのように感じましたか？



左の結果より、こども若者★いけんぷらすに対して興味を持ち、登録してみたいと思う人はどちらも 20%ほどに止まっていた。この傾向より、意見募集に関する情報提供がされていても、それに対して登録しようと思う人、興味を持つ人はとても少ないことが分かる。

意見募集事業に関する情報提供をより広く行っていく必要性だけでなく、情報を受け取った人が興味を持ち、参加しようと思える工夫を行なっていくことも重要なのだと感じた。

あくまで個人の考察だが、現在の意見募集事業は情報へのアクセスおよび事業への参加など、全体的に個人の意欲に任せられていると感じる。市区町村などの行政、学校でのアンケート、児童会・生徒会の活用を通して、より多くの人々が積極的に取り組むことができる仕組みづくりも重要だと考えた。